

C-10 ニットの縫製に関する研究 (第4報) ニットの心地について
東京学芸大教育 石毛フミ子 高知女子大学 ○ 岡崎芳子

目的 衣料のジャージ化が進み、今日では家庭縫製にまで進出してきている。ジャージでジャケット、またはコートを製作する場合どんな心地が適当であるか、接着後の物性、製作、着用(ボディ)、ドライクリーニングによる変化などから検討した。

方法 実験材料として表地毛100%、アクリル70%、毛30%の混紡地2種、心地はメリヤス、木綿、不織布の接着心3種を150°C5秒で接着し、物性(防しわ度、剛軟度、曲げ剛さ等)ならびにテーラーカラーの上半身(袖なし)を各2枚ずつ計12着縫製し、仕上げ後一定のボディに着用させ、ラペルのなじみ具合、ドライクリーニングによる変化をみた。

結果 1. 防しわ度、剛軟度、曲げ剛さにおいて2種類とも不織布>木綿>メリヤスの順でそれぞれの項目においては1%~5%の有意差がみられた。

2. 剛軟度とラペルのうきには相関があり、また、心地の種類別間とラペルのうきには1%の有意差がみられた。ドライクリーニングによる変化は今後測定をづけ結果をみる。